

テーマ：景気動向指数（2016年4月）

発表日：2016年6月7日（火）

～一致、先行とも2ヶ月連続の上昇～

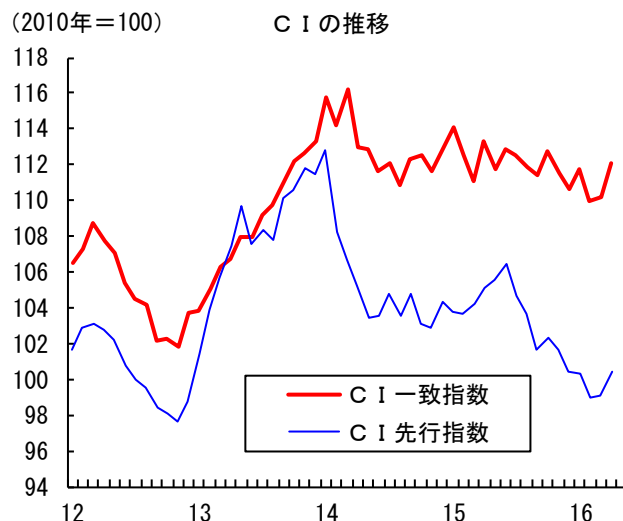
第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主席エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

○4月は全般的に改善

内閣府から公表された2016年4月の景気動向指数では、C I一致指数が前月差+2.0ポイントと高い伸びになった。4月は全般的に改善しており、採用系列すべてでプラス寄与になっている。なかでも投資財出荷指数、有効求人倍率、耐久消費財出荷指数の寄与が大きい。4月分の経済指標は比較的良好な結果のものが多く、このことがC I一致指数の改善に繋がっている。熊本地震による下押しが懸念されていたが、国内景気全体でみれば影響は限定的なものにとどまったようだ。

C I一致指数が一進一退の足踏み状態にあることは変わっていないが、2ヶ月連続で前月差上昇となることは明るいニュースだろう。これは14年12月～15年1月以来のことになる。

また、4月のC I先行指数は前月差+1.4ポイントだった。水準は依然低いままだが、こちらも2ヶ月連続の上昇である。内訳では新規求人数と最終需要財在庫率指数の押し上げ寄与が大きい。



(出所)内閣府「景気動向指数」

○基調判断は「足踏み」で据え置き。上方修正は6月分以降に持ち越し

内閣府によるC I一致指数の基調判断は、前月に続いて「足踏み」が維持された。「足踏み」の定義は「景気拡張の動きが足踏み状態になっている可能性が高いことを示す」である。足元の景気が停滞していることが確認できる。

なお、C I一致指数の3ヶ月後方移動平均前月差の値は4月に0.13ポイントと、6ヶ月ぶりの上昇となった。ちなみに、前月の段階では3月分でもプラスになっていたのだが、1～3月期の法人企業統計の結果が反映されたことで1～3月のC I一致指数の値が下方修正されており、この影響で3月分の3ヶ月後方移動平均前月差もマイナスに改定されてしまった。基調判断が「改善」に上方修正されるための基準は「3か月以上連続して、3か月後方移動平均が上昇」かつ「当月の前月差の符号がプラス」であるため、判断上方修正のタイミングは、最短でも6月分ということになる。